1992年４月17日第三種郵便物認可　（毎月３回７の日発行）
2020年10月３日発行　ＳＳＫＲ　通巻第9057号

～「ＡＬＳ安楽死事件を考える」～

理事長　奥山葉月

2019年11月、難病の筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）の女性に頼まれ、医師2名が薬物を投与し、嘱託殺人を行ったという事件はご存知と思います。

当法人が加盟する全国自立生活センター協議会、認定ＮＰＯ法人ＤＰＩ日本会議、その他障害者団体では連名で2020年7月30日「京都ＡＬＳ女性殺害事件に対する声明文」を発表しました。この声明では、「生きているのが辛いから自ら死を選ぶという意味では、尊厳死も安楽死も自殺と一緒ではないか。自殺対策大綱で「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」と掲げ、国をあげて自殺率を減らそうとしている一方で、尊厳死や安楽死を法制化しようというのは矛盾以外の何者でもない。自殺者としてカウントしなければ良いという問題ではない。この事件はネットを介した殺人に他ならない。」と述べ、「安楽死を強く望んだ被害者に同情と賛同を寄せていることの根底には、生産性のない重度障害者は生きる価値がない」という誤った論調があり、そもそも人は本来生きていることそれ自体で認められるべきであり、怖いのはいつも命に対して少数派が除外され、多数派の価値で測られ、それが全てであるかのように扱われることだ。」としています。（詳細は当法人ホームページに掲載してありますので、ご覧ください。）

ＡＬＳという難病と向き合わなくてはならないこと、身体的な苦痛は計り知れません。しかし、それだけではなく、私は殺害された被害者の女性が障害者となるまえも、なったあとも、事件の加害者よりも、他のだれもよりも、多数派の価値を望んで生きてきた方のように感じられてなりません。「生産性があり、人には頼らず、逆に他者に哀れみ、施しをする人でありたい。」という呪縛から抜け出せず、もしかしたら呪縛であることすら気づかず、一人苦しんでいたのかもしれません。私たち障害者が社会に存在する意味とは、そんな呪縛への気づきを一人でも多くの人にもたらすためなのかもしれないと改めて感じました。

1992年４月17日第三種郵便物認可　（毎月３回７の日発行）
2020年10月３日発行　ＳＳＫＲ　通巻第9057号

福祉ホットライン《障害者地域自立生活支援センター事業》2020年度上半期事業報告

〔1〕相談業務

上半期の相談支援では、一緒に暮らしていた親御さんが救急搬送されるケースと緊急での入院からそのまま高齢者施設入所されるケースがありました。早急に自宅に残されたご本人の介助体制や通所の調整、ご家族との連絡調整などのサポートを行いました。また、時間が経過するなか、親御さんがいない生活で不安を感じているご本人の気持ちを受止め、少しでも安心してもらえるよう声掛けをし、関係機関とも連携を取りながら対応するとともに、通院同行や処方箋を代わりに受け取るなどの支援も行いました。現在も親御さんの入所や通院や入院が続いています。ご本人が今の生活が維持できるよう、引き続きヘルパー体制や通所、金銭管理、健康管理など各支援機関と連携を図りながら、支援を行っています。

そのほか、例年同様に金銭管理や健康管理などの相談も多く寄せられ、健康面では医療機関とも連携をとり、通院同行などの支援を行うことで体調の安定がみられています。また、家族間や支援者などの人間関係について悩みを持つ方も多く、ピア・カウンセリングの手法を用いて、本人が落ち着いて人間関係を築いていけるようお話を聞いています。引き続き、相談支援に取り組んでいきます。

〔2〕その他業務、会議など

● 立川市自立支援協議会

全体会：９月18日、相談支援専門部会：８月６日

今年度の上半期は、自立支援協議会の全体会も相談支援専門部会もコロナの影響のため会議はそれぞれ１回のみの開催となりました。全体会では立川市福祉計画や地域生活支援拠点等事業などの報告、各委員からコロナでの影響など情報共有もされ、通所先が休みになったり、介助利用ができないなどの報告もありました。また、障害者本人やその家族がコロナになった、濃厚接触者となった場合にどうすれば良いか？わからないことが多く不安を感じているなどの意見も出されました。

相談支援専門部会では、特定指定相談事業所連絡会へ参加し、課題把握をすることになりました。

（鶴園　誠）

● 地域生活支援拠点等事業

７月１日より、立川市地域生活支援拠点等事業が始まりました。この事業は、障害のある方の高齢化や障害の重度化、介護を担っているご家族が亡くなられた後の生活を見据えた支援体制づくりのため、全国で取り組みが進められています。相談窓口の開設、緊急時の対応・単身生活が体験できる機会・場の提供、福祉サービスに関わる職員の専門性の向上、地域の事業所が協力し合えるネットワークを、その地域の実情に応じて整備し、障害のある方の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築する事業です。

立川市では相談支援事業所4か所にコーディネーターを配置することになり、福祉ホットラインでもコーディネーターを担い、相談に応じています。今後は、急病等により介護をされている方が長期間不在になるような緊急の場合に、障害のある方が一時的に介助を受けて生活したり、支援を受けながら１人暮らしの練習ができる場所も準備していく予定です。まずは、将来の地域での生活を共に考えていけるよう、この事業を多くの市民や事業所の方に知って頂きたいと思っています。

（廣瀬　麻美）

1992年４月17日第三種郵便物認可　（毎月３回７の日発行）
2020年10月３日発行　ＳＳＫＲ　通巻第9057号

立川市障害者就労支援センター はたらこ ～ 上半期報告 ～

今年度は人員体制の変更とコロナ禍でのスタートとなり、特に上半期は緊急事態宣言によって様々な状況への対応が迫られた日々でもありました。

その中でも、新たに利用登録された方は19名(知的障害13名、精神障害5名、身体障害1名)でした。そのうち発達障害の方は5名、高次脳機能障害の方は1名でした。利用経路としては、本人や家族からご相談を頂いた方が1名でした。また、特別支援学校高等部新卒者が11名、職業センターやハローワークから4名、その他福祉事業所から3名のご紹介がありました。新規利用の問い合わせは緊急事態宣言が解除されてから急増しました。

登録者状況（2020年9月30日）		
① 人数	216名	
② 性別	男性154名	女性62名
③ 年齢	10代 17名	40代 43名
	20代 87名	50代 23名
	30代 44名	60代 2名
④ 障害	知的障害163名	精神障害40名
	身体障害 11名	手帳なし 2名
⑤ 状況	一般就労中 196名	
	就職準備等 20名（福祉施設通所含む）	

就職は17件でした。内訳は、事務補助が7件、建物清掃業務が4件、小売店での補助業務が1件、物流関係の軽作業が1件、製造業での補助業務が1件、飲食店での食器洗浄業務が2件、病院でのケア補助業務が1件でした。そのうち特例子会社への就職は8件でした。

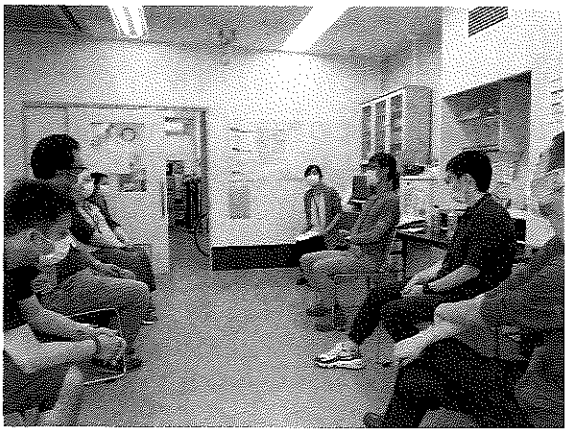
離職は3件ありました。離職理由は体調不良が1件、転職を目指してが2件でした。

準備訓練プログラムのうち、恒常的に行っていた高齢者施設清掃実習はコロナ禍により当面の間、実施できなくなりました。また、9月末のららぽーと実習も現場のオペレーション変更のため実施できませんでした。市役所庁内実習は、5月は中止となりましたが、感染に気をつけながら6月から再開し、6名(知的障害5名、発達障害1名)が参加しました。

知的障害の方を対象とした交流プログラムとして実施している「夕食会」は、コロナ禍により2月末から中止していましたが、7月から参加人数を各回14名までに限定して開催しました。再開時は4カ月ぶりにお会いできた方もいて、コロナ禍の苦労を分かち合うことができました。同じく知的障害の方を対象としたイベントとして「お楽しみ会」がありますが、規模が大きいため、残念ながら現在まで中止しています。

また、精神障害や発達障害の方を対象とした「茶話会」は、少人数ということもあり、7月に第一回を実施しました。テーマは「セルフケア力をアップさせよう」で、安定就労のために取り組んでいる日常的なリフレッシュや生活の工夫、ストレスへの対処などを話し合いました。在宅勤務中の過ごし方なども共有し、たくさんのヒントを得ることができました。

コロナ禍にあって、様々な制約が辛いと感じることもありましたが、自分自身の生活や働き方を点検するよい機会になったことも事実です。まだ終わってはいませんが、立ち止まって考えることの大切さを記憶しておきたいと思います。　（白部貴子）



茶話会の様子

自立生活部　― 2020年度上半期 事業報告 ―

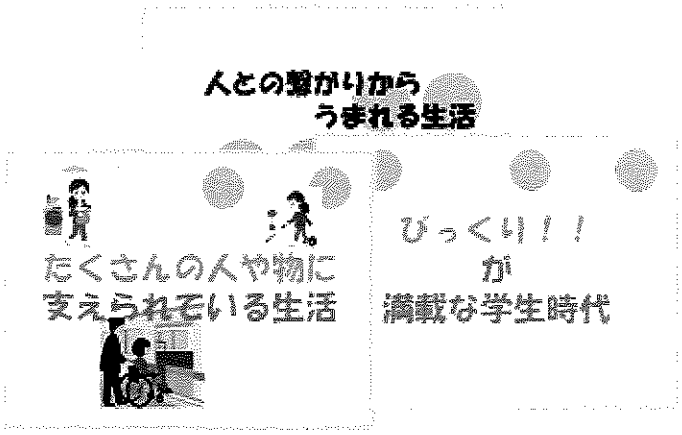
自立生活部においても、新型コロナウイルスの影響を受け、3月以降に予定していたプログラムを中止・内容変更せざるを得ない状況となりました。また、地域の方との交流を楽しみにしていた立川市内のイベントや、子どもたちに障害のある私たちの思いを届ける出前講座も軒並み中止となってしまいました。

今までに築き上げてきた様々な立場の方や地域の団体・機関の皆さんとの関係性が途切れてしまうのではないか、とても不安な気持ちになりました。しかし、今だからこそ、どのようにしたら関わり合っていけるのかを試行錯誤し、オンラインでのプログラム開催などの取り組みを始めました。ネット環境が整っていない方が取り残されてしまうといったことがないよう、新しいつながり方を模索している最中です。

今後も感染対策を万全に行い、新型コロナウイルスの関連の動向を伺いながらプログラム等を開催していきたいと思っています。

（廣瀬　麻美）

■協力員スキルアップ研修（①8月19日②9月18日）



これまで、障害者のある私たちの地域生活を、より多くの方に知ってもらう、理解してもらうため、協力員の皆さんと学びあう場として協力員スキルアップ研修を継続して参りました。

しかし、コロナ渦の中で場を持つことが難しくなり、協力員同士で会う機会がほとんど無くなってしまいました。

その様な中、協力員同士、お互いの障害の事や、出前講座などで工夫している点など、知っていそうで、知り合えていない部分が沢山あるのではないかという声が上がりました。

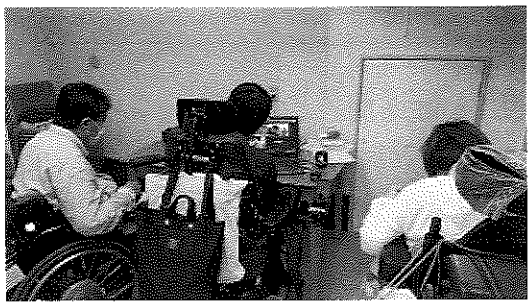
そこで【～お互いを知ろう！繋がろう！～】というテーマで、協力員が仲間たちに向けて「Zoom」を利用して発信する研修を8回連続で開催する事になりました。

初回8月19日の研修は、自立生活センター・立川として初めてZoom発信のプログラムとなりました。巷で使い易いと言われているツールですが、初めての開催に向けて、事前に打ち合わせを行い、当日のネット環境の設定を行いと、初めてづくしの中、手探り状態で準備をすすめました。

初回は、スピーカーが 3人、聞き手が5人程度の小さな輪の中での繋がりでしたが、少しずつその輪も大きくなっています。コロナ渦だからこそ繋がれる輪を、確実に大きくしていくため、引き続きチャレンジしていきたいと思います。

（鈴木　徳子）

■ＩＴプログラム「とにかくつなげよう、つながろう！」（9月25日）



自立生活センター・立川と関わりのある障害当事者を対象に、ＩＴプログラムを開催しました。このプログラムは、障害当事者の暮らしをより豊かにするＩＴ機器の情報を提供する機会として昨年度から継続していて行っています。

今年度のメインテーマは、コロナ禍においてますます求められているツール「Zoom」を使って、「とにかくつなげよう、つながろう！」のサブタイトルの通り、それぞれの参加者がリモートコミュニケーションにつながることを目的に取り組みました。

皆さんＩＴに興味や関心はあるものの、障害を問わずその理解やスキルは人それぞれです。その中でサポートをさせて頂きながら、時間はかかったものの何とかプログラムの中盤には全員つながることができました。

参加者の全員がリモートコミュニケーションにつながったところで、東京大学先端科学技術研究センター学術支援専門職員の奥山俊博氏を特別講師にお招きし、Zoomの便利な使い方や機能についてご説明いただきました。さらに、肢体不自由グループと視覚障害グループに分かれ、ＩＴに関する情報交換をしました。

皆さんで様々な意見交換をしている間に終了の時間を迎え、名残惜しいところでプログラムは閉会となりましたが、まだまだ参加者からＩＴに関する話が尽きなかったことが印象的でした。また、コロナ禍でもひとや社会とのつながりを大事にするために、このような機会がきっかけとなれば幸いです。

（大石　幸治）

■立川市地域公共交通会議の委員を務めます

9月3日に行われた、令和2年度第1回立川市地域公共交通会議に参加してきました。この会議は、地域の実情に即した交通サービスの提供と、より良い交通体系の実現を図るために設置された会議で、関係行政機関の職員、学識経験者など、様々な立場の方が集まり、立川市の実情に応じた市民バス（くるりんバス）運行の様態や料金、その他地域公共交通に関する事業計画等について話し合います。

そして、この度私も今期の市民委員の1人としてこの会議にかかわらせていただけることになりました。今回は今年度第1回目の会議ということで、新型コロナウイルスによる各種公共交通機関への影響や今後の見込み等について、それぞれの出席者から報告がありました。そして、市民バス・路線バスやタクシーは感染拡大防止に取り組みながら運行を継続していること、利用者が前年と比べてかなり減少していることを共有し、今後も新型コロナウイルスの状況を見ながら地域公共交通のあり方を検討していく必要があることを確認しました。

また、私からも、地域で暮らす視覚障害当事者の視点から、新型コロナウイルスによる生活への影響や公共交通機関の利用に関する状況の変化などについてお話させていただきました。

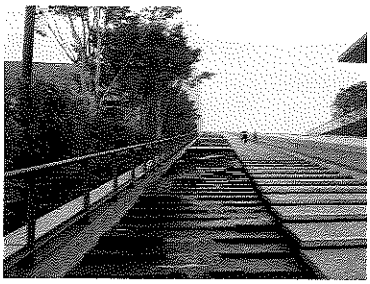
地域公共交通は、地域住民の移動機会の平等の実現を目指していくうえでとても重要な取り組みであり、私たち地域で暮らす障害当事者にとっても有用な交通手段の１つです。今後もこの会議に参加させていただき、市民委員として、また地域で暮らす障害当事者としての視点からも意見を発信していければと思っています。

（櫻井　未来）

●知的事業

■うっちぃ散歩　グリーンスプリングス取材　【6/26】

ＪＲ立川駅北口から歩いて 8分ほどの場所に、複合型施設「グリーンスプリングス」がオープン！緑があふれるオシャレで楽しめる施設だという噂を聞きつけ、知的事業で取材してきました。施設のコンセプトは「空と大地と人がつながるウェルビーイングタウン」。買い物や食事ができるお店だけではなく、コンサートホール、ホテル、オフィス、公園などが揃う、ひとつの「まち」のような場所になっています。取材当時、新型コロナウイルスの影響でオープンが遅れているお店もありましたが、レストランや公園をメインに施設内を見て回りました。お店以外にも、オシャレな写真が撮れそうなスポットがあったり（写真右）、大きな階段から水が流れていたり（写真左）、おすすめポイントがたくさんあって、ふらっとお散歩に行くだけでも楽しめそうな場所でした。内山さんと泉口さんの感想を掲載します。



内山さん：噴水があってよかった。コンサートホールがあって、他にはおしゃれなお店や、レストランがありました。

泉口さん：今まで行ったことがない、新しいスポットだなぁと思いました。全部のお店を見ることができなかったので、紹介できていないところがありますが、みなさんもぜひ行ってみてください。

■「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例の使い方」パンフレット作成

2018年4月に立川市でつくられたこの条例。施行されて2年が経ちました。立川市に住む人たちが障害や障害のある人に対する理解を深めてほしい、障害を理由とする差別をなくしたい、という思いから作られたこの条例ですが、障害のある人たちにもこの条例を上手に使ってもらい、障害のある人もない人も一緒に暮らしやすい立川をつくっていけるといいなと思っています。

そこで、条例を知らない人や、知っていても使い方や内容が分からない障害当事者に向けて、分かりやすいパンフレットを作る活動を行いました。パンフレットには、モヤモヤしたこと（差別）を相談してから解決するまでの流れや、相談窓口の連絡先などを記載しています。内山さん、泉口さんがこれまでに経験した「モヤモヤしたこと」を話し合ったり、立川市や市以外の差別事例を調べたりしながら、誰が読んでも分かりやすい内容になるように作りました。作成したパンフレットは、たくさんの人の手に取ってもらいやすい場所に置いてもらえるよう、準備を進めているところです。この記事では、パンフレットの最後に記載した内山さん、泉口さんからのメッセージ全文をご紹介します。

【パンフレットより抜粋】

条例を読んで、障害があってもなくても同じ人間で、ひとりひとりが大切にしあえる立川市になるといいなと思いました。障害があってもなくても、人は助け合いながら暮らしているけど、障害があると、その助けがたくさん必要な場合があります。でも、障害のある自分たちも人を支えることができると思います。いろんな人が支え合いながら、暮らしていけるといいですね。

条例ができて、障害のある人がまちであったモヤモヤを相談して、相談窓口や立川市の担当の人に解決の協力をしてもらえることができるようになりました。障害のある人とない人が、条例をきっかけにそれぞれを知ると、モヤモヤがまちになくなると思います。

みんなもモヤモヤがあったら、相談してみてください。　　（金井　春奈）

1992年4月17日第三種郵便物認可　（毎月3回7の日発行）
2020年10月3日発行　ＳＳＫＲ　通巻第9057号

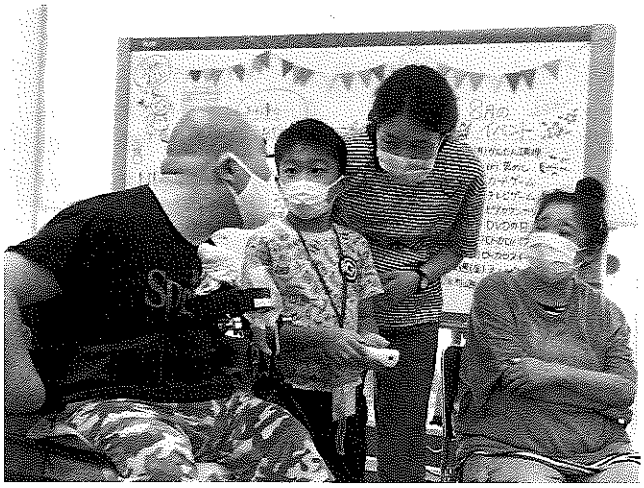
生活介護事業所 えんぱわ

えんぱわにかわいい「夏ボラさん」がきました

「夏ボラ」とは、「夏体験ボランティア」(以下、「夏ボラさん」と略す)という立川市社会福祉協議会が行っている企画です。ボランティア活動に関心はあるけれど、なかなかきっかけがないという方々のために、夏の期間を利用して様々なボランティア活動の中から自分に合いそうなものを選んで、参加できる企画になっています。今回、えんぱわではYouTubeにもアップしていただいた成果もあり、数ある中からえんぱわを選んでくださった「夏ボラさん」が7、8月で5名となりました。

そのなかに小学生の兄妹(8歳、6歳)というかわいい「夏ボラさん」も来てくれましたので、そのときの様子をご紹介します。

「夏ボラさん」たちには、バイタルチェックやお茶入れのお手伝いをしてもらったり、メンバーさんと一緒にトランプやWiiで遊んだりしてもらいました。トランプの神経衰弱では、私たちに合わせてトランプの枚数を半分にしてくれました。また、ジジ抜きの時はメンバーのトランプを代わりに持ってくれ、「どのカードを引きますか？」と毎回、聞いてくれるなど細やかな気配りも見られました。



Wiiのクイズゲームでは、どの答えを選ぶかメンバーさんに聞いてくれ、代わりにコントローラーの操作をしてくれました。(右写真→)

えんぱわメンバーさんに感想を伺ったところ、「私には子どもがいないので、子どもとふれあう珍しい機会でしたが、勝気だなと思った。」「一生懸命よく頑張ってくれた。これをきっかけに福祉に関心をもって、もっと関わってもらえると嬉しいと思った。」「小学生の時からこのような経験をしてもらうと障害のある私たちへの理解が深まって、とても良かったと思う。小学生が楽しそうにしていてよかった。」とのことでした。

本来なら、えんぱわの活動で地域にたくさん出かけていき、障害のある人とない人が知り合うきっかけ作りをしたいと思っていましたが、コロナの影響で断念していました。

しかし、今回は「夏ボラさん」という機会をいただき、少しですが目的を果たせたように思います。

今後も「夏ボラさん」だけでなく、素敵な出会いのきっかけをみつけていきたいと思います。

(←水曜メンバーさん＋職員＋夏ボラさん)

(サービス管理責任者　奥山　葉月)

1992年４月17日第三種郵便物認可　（毎月３回７の日発行）
2020年10月３日発行　ＳＳＫＲ　通巻第9057号

私たちの動き（6/1～9/30）

（　）は担当部門名　ＣＩＬ・ＨＬ・はたらこ

【イベント・行事の実施】

（ＣＩＬ）
- 協力員のためのプログラム(6/22, 8/7)
- 協力員会議(7/3)
- 協力員スキルアップ研修(8/19, 9/18)
- ＩＴプログラム
  「とにかくつなげよう、つながろう！」(9/25)

（はたらこ）
- 茶話会(7/18)

【連絡会・委員会・連携業務】

（ＣＩＬ）
- 東京都相談支援従事者初任者研修検討会議
  (6/3. 11. 18. 25, 7/16, 8/7. 25)
- りらく定例会(6/18, 7/16, 8/20, 9/17)
- 拠点コーディネーター会議(6/25, 7/16, 8/28, 9/17)
- 多摩療護園オンブズパーソン(6/26, 7/29, 8/25, 9/24)
- 障害のある人もない人も暮らしやすい
  立川を考える会総会(7/6)
- 障害のある人もない人も暮らしやすい立川を考える会
  地区別懇談会(7/15, 9/23)
- 立川市指定特定相談支援事業所連絡会(7/21)
- 立川市災害ボランティアネット定例会(7/22)
- 立川市人権学習事業実行委員会(8/3)
- 障害のある人もない人も暮らしやすい
  立川を考える会定例会(8/19)
- 立川市障害者施策推進委員会(8/21)
- 立川市自立支援協議会運営会議(8/25)
- 立川市地域公共交通会議(9/3)
- たちせいれん(9/18)
- 障害を理由とする差別解消まちづくり協議会(9/28)

（ＨＬ）
- 立川市障害者週間実行委員会(6/18, 7/16, 8/20, 9/17)
- 立川市自立支援協議会全体会(9/18)

（はたらこ）
- 立川市自立支援協議会就労部会(8/4, 9/29)
- 立川市自立支援協議会運営会議(8/25)

【外部への見学・研修・イベント】

（ＣＩＬ）
- ＪＩＬ総会(6/23)
- ＴＩＬ学習会(7/16, 9/4)
- ヒューマンケア協会訪問(8/6)
- ボランティア・市民活動センターたちかわ講座(8/12)
- 立川市災害ボランティアネット特別防災講座
  (8/29, 9/26)
- 考える会防災学習会(8/31)

【外部からの見学・研修】

（ＣＩＬ/えんぱわ）
- 夏体験ボランティア(7/13. 27, 8/12. 14. 17. 18)

（ＣＩＬ）
- 西武文理大学(8/21～9/28)

【講師派遣】

（ＣＩＬ）
- 立教大学(9/21)

★　ご寄付等、ありがとうございました　★

- 西村貴大　様
- 小林哲也　様
- 清田昌　様
- 鴨池敏子　様
- 山崎優大　様
- 森孝夫　様
- 小林恵一　様
- 細金君代　様
- 原敏起　様
- 堀田哲一郎　様
- 石渡和実　様
- 石射保　様
- 我部仁志　様
- 野上和之　様
- 林のり子　様
- 武田和実、美鈴　様
- ㈱三興製作所　様
- 匿名　１名　（順不同）

特定非営利活動法人　自立生活センター・立川
〒190-0023 東京都立川市柴崎町２-10-16 オオノビル2F
TEL：042-525-0879　FAX：042-521-3134
URL：http://cilt.sakura.ne.jp/
Mail：cilt@sh.rim.or.jp

発行人
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会（定価百円）
郵便番号一五七―〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一